

検診機関における要精検率について

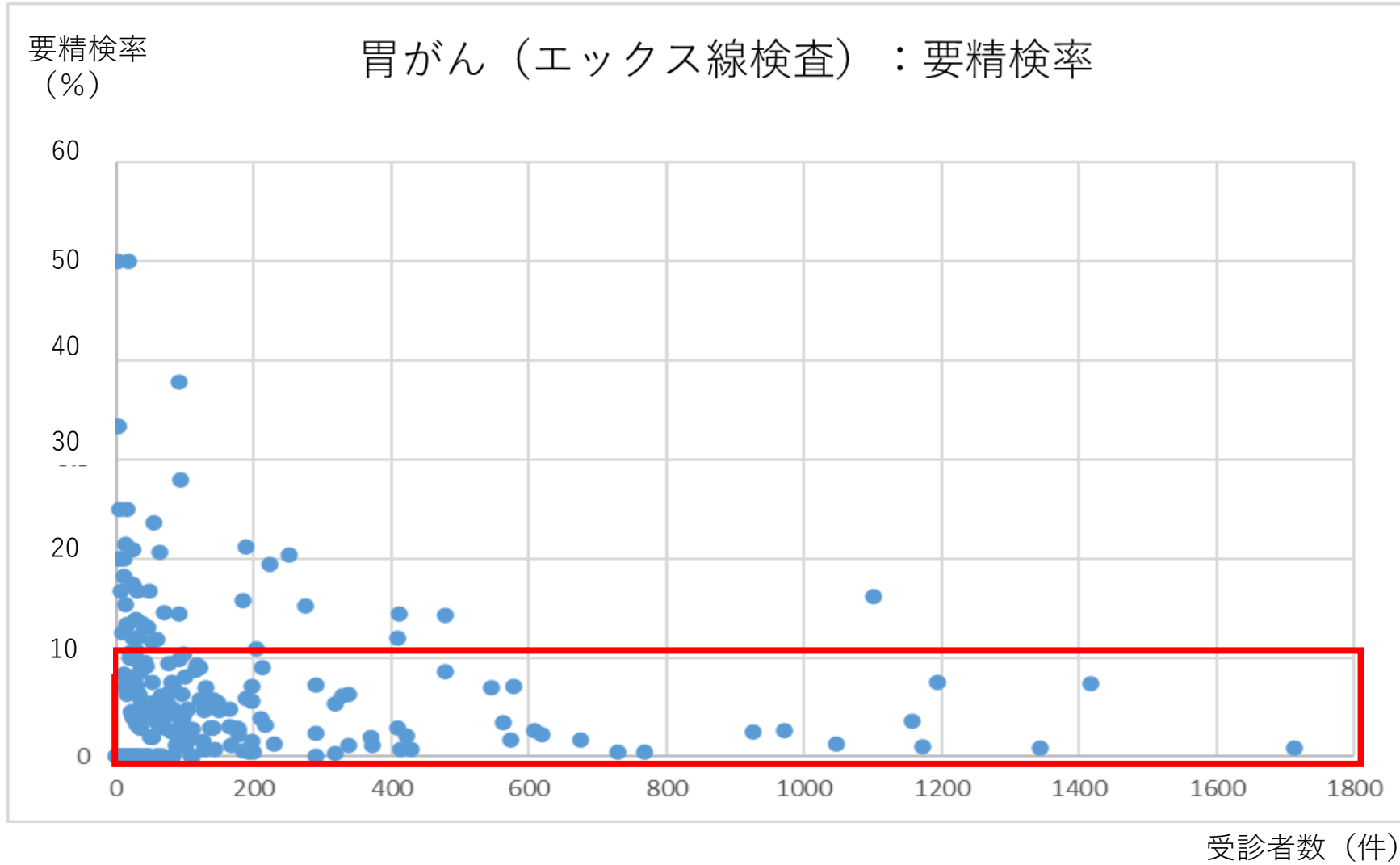
長崎県では、令和3年度（令和元年度実施分）より各市町あて「検診機関毎の精度管理指標」の調査を実施しています。

具体的には、市町が委託している検診機関の精度管理指標値（受診者数、要精検者数、精検受診者数、がん発見数等）をがん種別に報告いただいています。

今回、令和元年度実施分の精度管理指標値を集計しました。

要精検率については、許容値を超える医療機関も複数見られたことから、該当する医療機関に対して、精度管理の状況等を確認しながら、必要時改善におけた働きかけ検討しています。

要精検率の分布図（検診医療機関ごと）

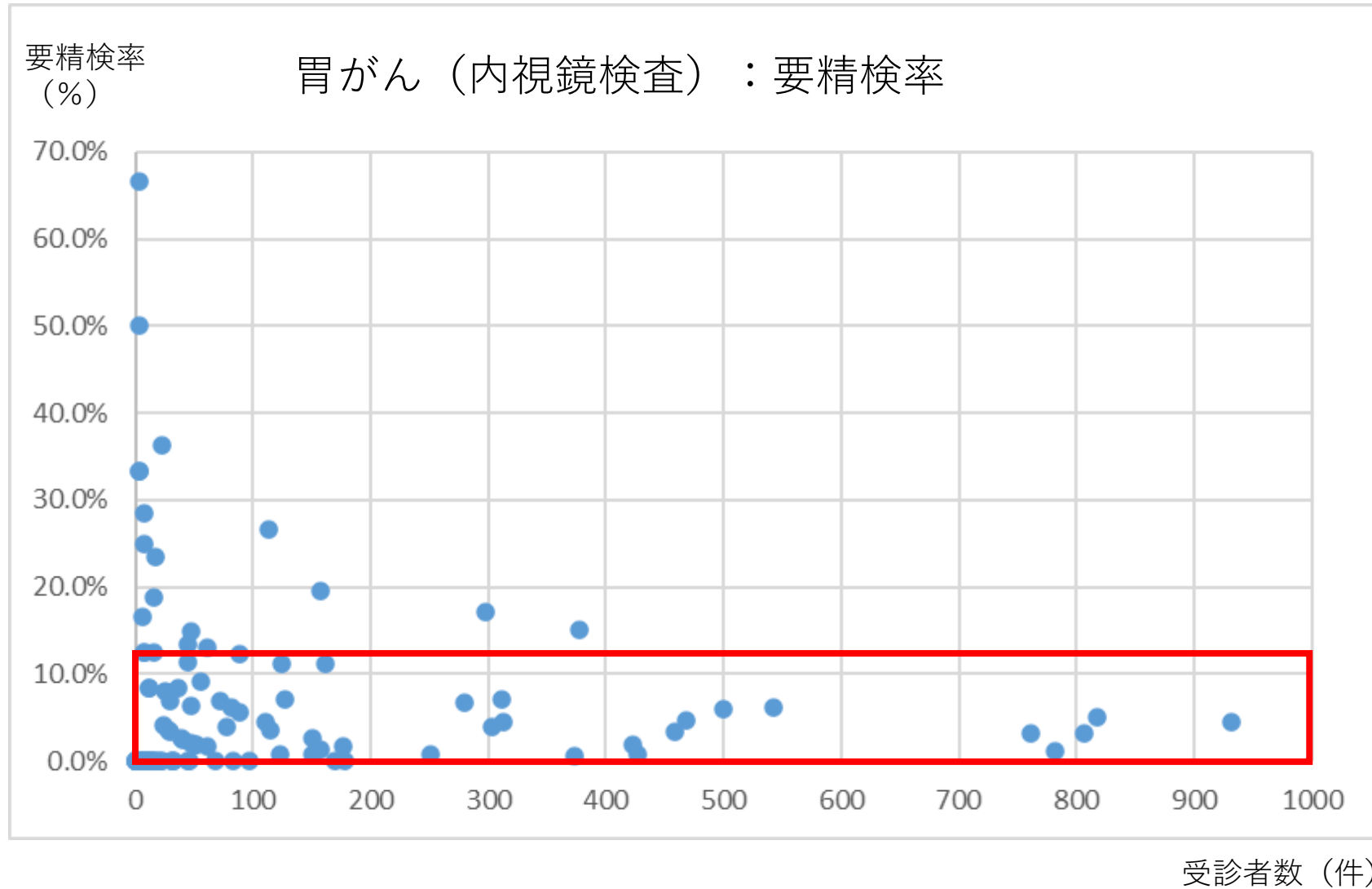


■胃がん（内視鏡線検査）

精度管理指標	許容値
要精検率	11%以下
精検受診率	70%以上
がん発見率	0.11%以上
陽性反応的中度	1%以上

許容値
11%以下

要精検率の分布図（検診医療機関ごと）



■胃がん（エックス線検査）

精度管理指標	許容値
要精検率	11%以下
精検受診率	70%以上
がん発見率	0.11%以上
陽性反応的中度	1%以上

許容値
11%以下

要精検率	医療機関数	検診受診者	要精検数	要精検率 (%)	精検受診者	精検受診率 (%)	発見がん数	がん発見率 (がん発見/検診受診者(%))	陽性反応的中率 (がん発見/精検受診者(%))
0~5	79	8771	210	▼2.39	186	88.57	8	0.09(a)	4.30(a)
5~11	16	3037	186	▲6.12	170	91.40	3	0.10(b)	1.76(b)
11~	24	1639	268	▲16.35	214	79.85	3	0.18(c)	1.40(c)

①

②

有意差なし
a vs. b+c

③

P<0.1,
a vs. b+c

全体の要精検率は4.9%

- ①検診受診者あたり精検受診者数では、有意差あり。
- ②要精検率5%以下と5%以上で比較すると、検診受診者あたりのがん発見数には有意差なし
- ③陽性反応的中率を要精検率5%以下と5%以上で比較すると、要精検率5%以上の医療機関では、陽性反応的中率が低い傾向(p<0.1)。(発見がん数が少ないためまとめた)

要精検率が高い医療機関は、陽性的中率が低い傾向。

要精検率	医療機関数	検診受診者	要精検数	要精検率 (%)	精検受診者	精検受診率 (%)	発見がん数	がん発見率 (がん発見/検診受診者(%))	陽性反応的中率 (がん発見/精検受診者(%))
0-5	177	24250	424	▼1.75	391	92.22	54	▽0.22	▲13.8
5~11	57	9045	660	▲7.30	589	89.24	43	▲0.48	7.3
11~	42	5296	759	▲14.33	597	78.66	24	0.45	▼4.0

①

②

③

④

全体の要精検率は4.8%

- ①検診受診者あたり精検受診者数では、有意差あり。
- ②要精検者のうちの精検受診者には有意差なし。
- ③がん発見数有意に有意差あり。
- ④要精検者あたりの発見がん数は、有意差あり。

要精検率の高い医療機関では、症状のある人を検診に含めている可能性が高い。
一方、要精検率が上昇すると陽性反応的中率は低下する。

胃透視vs. 胃内視鏡検査

許容値 ≤ 11%

許容値 ≥ 0.11%

許容値 ≥ 1%

	医療機関数	検診受診者	要精検数	要精検率 (%)	精検受診者	精検受診率 (%)	発見がん数	がん発見率 (がん発見/検診受診者(%))	陽性反応的中率 (発見がん/精検受診者(%))
胃透視	119	13447	664	4.94	570	85.84	14	▼0.10	2.46
胃内視鏡	276	38591	1843	4.78	1577	85.57	121	▲0.31	7.67

胃透視では、胃内視鏡と比較して、受診者あたりの発見がん数が有意に少ない
胃透視では、がん発見率が許容値に達していない。

→一般的に、検査の特性、受診者の特性、検査機関の問題等が原因として考えられる。